

健康

質問
32歳女性です。結婚して半年で子宮頸がんを診断され、子宮を温存する手術を受けました。術後に抗がん剤治療を受けることになり、その影響で今後妊娠ができなくなるのではないかと心配しています。

抗がん剤治療後妊娠できるか



西村 正人
徳島大学病院
産婦人科講師

回答
卵巣は生殖に関わる重要な臓器です。卵子の数は出生直後には200万個ほどありますが、年齢とともに減少し、月経が始まるころには30万個程度になっていきます。その後も排卵に伴い減少し、新たに作られることはありません。抗がん剤治療により卵子の数が減少します。

抗がん剤治療を始める前、卵巣機能が低下し無月経になりますが、治療が終了すると影響を受けなかった卵子が働き始め、6カ月以内に月経が回復するケースが多いようです。しかし、使用する薬剤の種類や量によって卵巣への影響は異なっています(表)。

薬の種類・量で影響に差



ミトという抗がん剤は卵巣機能に影響を与えやすい薬剤で、40歳以上の場合、総投与量が5²毎平方センチメートル以上になると70%以上の女性が無月経になることが分かっています。子宮頸がんに使われる薬剤としてはシスプラチンがありますが、これが含まれる治療は卵巣機能に対しては中リスクとされており、使用量が多くなつた場合は卵巣機能に影響が出る場合があります。このほか、最近子宮頸がんや卵巣がんに使われることが多くなつたパクリタキセルの影響は十分解明されていませんが、卵巣への影響は少ないようです。実際に行われる治療としては、

無月経のリスク	治療法	使用量・年齢	治療対象
高リスク (70%以上が無月経)	シクロフォスファミド	5 ² 毎平方センチ(40歳以上) 7.5 ² 毎平方センチ(20歳未満)	乳がんなど
	腹部放射線療法	成人で6 ² 以上	リンパ腫など
中リスク (30~70%が無月経)	シクロフォスファミド	5 ² 毎平方センチ(30~40歳)	乳がん
	アドリアマイシン+シクロフォスファミド	4回+パクリタキセル(40歳未満)	子宮頸がんなど
低リスク (30%未満が無月経)	シスプラチンを含む治療	30歳以下	乳がん

無月経になる場合も

質問募集
がんに関する質問は、徳島がん対策センター(電話088(633)9438)(平日午前8時半~午後5時)にお寄せください。http://www.toku-gantaisaku.jp/でも受け付けます。

パクリタキセルとカルボシチンの併用療法が6回行われますが、多くの場合は卵巣機能が回復し、月経が始まります。治療後に無月経になる可能性は5%程度との報告があります。また、治療後の妊娠、胎児への影響ですが、抗がん剤の影響を受けなかった卵子が発育します。妊娠した場合の胎児の発育や生まれてくる新生児への影響は心配ありません。最近、化学療法や放射線療法を受ける前に卵子、あるいは卵巣の一部を凍結して保存する方法が開発されています。抗がん剤や放射線の影響を回避する方法です。これができる施設は限られているので、かかりつけの医師と、卵子・卵巣凍結を行っている施設の生殖医療専門医に相談することをお勧めします。(第4土曜掲載)